



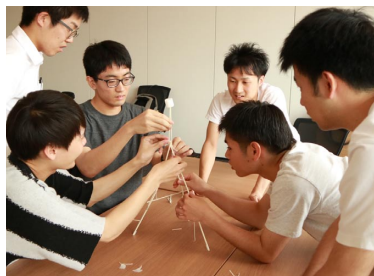
日本の農業を切り拓く、農業経営者へ。

日本農業経営大学校

通常講義の様子

6月、学生たちは翌月に迫った先進農業経営体派遣実習や企業実習の実習先探しや卒業研究の構想発表などもありますが、引き続きさまざまなテーマの授業を受講しています。今回は2年生の授業の中から「経営者のための心理学」、「世界の食料・農業政策」をご紹介します。

「経営者のための心理学」（人間力領域）では、農業経営をおこなう上で知るべき心理学について、「集団の形成と発達」・「組織マネジメント」の2つの側面から学んでいます。担当の丸山琢真先生（株式会社エーブルー代表取締役）は、チームビルディングを専門とするコンサルティング会社を経営されていますが、授業では理論の学習はもちろん、企業の研修などでも使われるワークをおこなうことで学習内容が「腹落ち」するよう工夫されています。



例えば6月13日の授業のテーマ「リーダーシップ」では、グループで「マシユマロチャレンジ（マシユマロとバスタを使って、できるだけ高く自立するタワーを作る）」をおこなったあと、各グループでどのようなリーダーシップ

が発揮されたかを議論し、その振り返りを踏まえて、学生個々のリーダーシップのあり方について他の学生がコメントするという授業構成でした。学生のレポートからは、ワークで実際に感じたことを起点に議論し同期から意見をもらうことで、自分の特性やリーダーシップのあり方がより深く理解された様子が読み取れます。

「世界の食料・農業政策」（農業力領域）では、主要な先進国とアジア諸国の食料・農業に関する実態と政策を各地域の専門家の先生方から学びます。なかには市民セクターの取り組みを学ぶ回もあり、6月11日には特定非営利活動法人APLAを訪問し講義を受けました。

APLAはアジアにおける農を軸にした地域自立を支援するNPOで、フィリピンなどの農村支援やフェアトレードの取り組みをおこなっています。授業では、事務局長の吉澤真満子さんから、APLAが生協などと連携して取り組んでいるバランゴンバナナのフェアトレード（APLAでは「民衆交易」と呼ぶ）を主な題材に、途上国の農業・農村が抱える問題や、それに対する支援の歴史をお話いただきました。学生からは「輸出側側面は考えたことがなかった」「フェアトレードの意義や認証制度について初めて詳しく知った」などの感想があり、これまでとは違う視点で食料・農業の世界を見るきっかけになったようです。



1年生は6月末、2年生は7月上旬で前期の授業が終了し、いったん座学から離れて、長い実習期間に入ります。本校の特徴は、このように座学と実習を交互におこなうサンドイッチ教育。座学で得た知識や視点を思い出しながら実習に取り組みしていくことが狙いです。

特別講義の様子

6月21日に開講された特別講義では、日本の物流を担うヤマトグループの取り組みをお聞きしました。なお、その会場は、羽田にある「クロノゲート」。お話だけでなく実際に見学させていただくなど、豪華な講義となりました。

まずはヤマトグループの歩みを聞きつつ、実際に荷物が運ばれるところを見学したのですが、学生からは「おおー！」という驚きの声が聞かれました。大量の荷物が効率よくスピーディーに仕分けされていく様子を目の前で見るとやはり迫力があります。



日本農業経営大学校

Japan Institute of Agricultural Management

※本誌の無断転用・転載を禁止します。

[発行人] 一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン

〒108-0075 東京都港区港南2-10-13 農林中央金庫品川研修センター5階

TEL: 03-5781-3750 FAX: 03-5781-3752



日本の農業を切り拓く、農業経営者へ。

日本農業経営大学校



(写真) 特別講義の様子

同時に、日々これだけ大量の荷物が日本を駆け巡っているのだと実感しました。(ちなみに見学時はオフピークとのことでしたが、ピーク時には一体どうなっているのか想像がつかない程の物量でした。)

見学につき、ヤマトグループが取り組んでいる事業について国際輸送や国内輸送をはじめ多岐に渡ってご紹介頂きました。特に国際輸送については、貿易という観点でお話を伺う中で、「単なるモノの流れではなく、それに付随する手続きやお金の流れなどを学びました。物流に関わる視点で様々な話をお聞きすることで、学生たちがより柔軟に、より広い視野をもちながら将来の

農業経営を考える良い機会となりました。また、今回はご紹介できませんが、6月26日の特別講義は「生産者に寄り添う流通」と題して、秋元里奈さん(株式会社ビビッドガーデン代表取締役)、杉本恭佑さん(VEGEO VEGECO 根津店 店長)によるトークセッションです。こちらについては次回ご紹介したいと思いますので楽しみに！

先進農業経営体視察研修

6月4日(月)～8日(金)の4泊5日で1年生の視察研修を行いました。今年度は和歌山、奈良、大阪、京都、滋賀、愛知とまりました。1日3ヶ所～4ヶ所ずつ訪問し、農業経営体や農産加工工場、農

産物直売所、機械メーカーなど全部で12カ所を視察しました。学生たちは農業への想い、農産物に対するこだわり、これまでの苦労話を聞き、農業の面白さや大変さを改めて感じる事ができたようです。

●学生の感想

最終日は「ヤンマー株式会社びわ工場」、「有限会社鍋八農産」を視察しました。びわ工場ではディーゼルエンジンの生産で自動化と手作業を合わせた独自の生産方式により省力化・効率化をはかり、鍋八農産ではICT技術を駆使し情報の見える化を行うことで計画から記録までの全ての流れにおける正確性・確実性を高めていることが特徴的でした。

この2ヶ所を視察して個人的に感じたのは、農業における課題の解決のヒントが他業界に存在することもあるということです。自分も実際に就農したらアンテナを広げて情報収集をして行きたいです！お忙しい中、視察のご対応ありがとうございました。皆様のご協力を無駄にしないためにも将来に向けて歩いていきたいと思います！



日本農業経営大学校

Japan Institute of Agricultural Management

※本誌の無断転用・転載を禁止します。

[発行人] 一般社団法人アグリフューチャージャパン

〒108-0075 東京都港区港南 2-10-13 農林中央金庫品川研修センター 5階

TEL : 03-5781-3750 FAX : 03-5781-3752